

福島 飯坂

茂庭ガイド



茂庭の歳時記

春



滝野

- 4月 桜(見頃:下旬~5月上旬)
5月 蓮華滝不動尊御祭礼(3日)
- 7月 白鳥神社御祭礼
(第2土曜日)
茂庭っ湖まつり
(下旬日曜日)

夏



白鳥神社御祭礼

- 10月 茂庭そばまつり(中旬~下旬)
摺上川ダム森づくり大作戦
(中旬~下旬)
紅葉(鳩峰峠周辺
見頃:下旬)

秋



摺上峡

- 11月 紅葉(茂庭っ湖周辺
見頃:上旬~中旬)
2月 寒晒しそば

冬



茂庭っ湖

茂庭地区では、景観住民協定を結び景観の保全に取り組んでいます。

摺上川ダム周辺地域づくり協議会

〒960-0271 福島市飯坂町茂庭字宮沢口9-1(事務局:福島市茂庭出張所)

問い合わせ:TEL (024)596-1001

photo : katsuyama
表 紙 : 摺上峡



茂庭施設案内図



①	軽井沢不動尊	4
②	白滝不動尊	4
③	八坂神社	5
④	御嶽神社(田畑)	5
⑤	蓮華滝不動尊	6
⑥	蓮華滝	6
⑦	滑滝	7
⑧	茂庭家墓所	7
⑨	熊野神社	8
⑩	田村御前の墓	8
⑪	毘沙門天王	9
⑫	天香森	9

⑬	菅沼跡	10
⑭	白岩	10
⑮	西滝不動尊	11
⑯	西滝	11
⑰	白鳥神社	12
⑱	白鳥神社の大杉	12
⑲	広瀬観世音	13
⑳	胴流し地蔵(愛宕神社)	13
㉑	梨平神社	14
㉒	御嶽神社(名号)	14
㉓	行人滝	15
㉔	亀岩	15



茂庭の大蛇伝説

茂庭には「大蛇退治」の伝説と、それにまつわる地名や史跡が今に伝わっています。

菅沼すげぬまに棲みついた大蛇は、近隣の村々から人身御供を捧げなければ大水害を引き起こすとして、非常に恐れられていました。

建久3年(1192年)、生け贄にされる娘を救うため関東からやって来た斎藤実良公さいとう みのりは、神の御加護によって授かった矢で大蛇を退治したといわれています。

村を救った実良公は人々に懇願されてとどまり、名を改め以降

十三代にわたってこの地を治める茂庭公の初代になったということです。

大蛇の体は三つに切り離し、首を川下の田端(田畑)に、尾を中ほどの梨平に、胴を川上の名号に埋葬し、それぞれの場所に、田端の御嶽神社、梨平神社、名号の御嶽神社を建立しました。

尾を間に挟んだのは、生き返って再び害を及ぼさないように祈念したためといわれています。





茂庭広瀬公園



霧華そば



茂庭旬景ホームページ

ホームページでは、パンフレット以外にも茂庭の四季折々の風景を紹介しています。「茂庭旬景」のキーワードで検索をしてください。

茂庭旬景

検索

1 軽井沢不動尊



大蛇退治の際に、実良公を助けようと不動様が現れて社殿対岸の岸壁に飛付いた、あるいは、昔は対岸にあって参詣するには摺上川の向こう側へ飛び付く必要があった、などのいわれがあり「飛付不動尊」とも呼ばれています。

大正14年(1925年)、成田山新勝寺において入仏式が行われ、帰路は不動様のお告げにより摺上川を舟で帰られたといわれており、その舟は今もお堂の脇に保存されています。

2 白滝不動尊



享保年間(1716~36年)に不動尊を祀ったとされ、先祖を尊び末永い子孫繁栄を祈願してきました。昔、修行僧や巡礼の人たちは、茂庭地区では白滝不動尊を最初に参拝したといわれています。祭礼は4月29日に行われ、五穀豊穡や家内安全を願い、護摩祈禱が執り行われています。

3

八坂神社やさかじんじや



祭神は「スサノオノミコト」(須佐之男命・素戔嗚尊)で、人々からは疫病退散の神様として崇められています。また、天王様とも呼ばれ親しまれています。

4

御嶽神社みたけじんじや (田畑たばた)



実良公によって退治された大蛇の首を埋め祈ったといわれています。
祭神は「ヤマトタケルノミコト」(倭建命・日本武尊)でしたが、明治11年(1878年)に「ウカノミタマノカミ」(宇迦之御魂神・倉稲魂命)と「オオヤマツミノカミ」(大山津見神・大山祇神)を合祀しました。

5

蓮華滝不動尊



実良公の矢によって瀕死の傷を負った大蛇は、半田沼へ逃げようとしてきました。茂庭沢に差し掛かった時、滝壺から蓮華の花に乗った不動様が現れて大蛇を乗り越えたところ、ようやく息絶えたと伝えられています。

6

蓮華滝



高さが約20メートルもある蓮華滝は古くから修験者の行場として知られ、蓮華滝不動尊に詣でる信者の禊の滝となっています。

7

滑滝なめたき

昔、この地を治めていた茂庭家では、滑滝で獲れた鱒を伊達家へ献上することを恒例としていました。茂庭家6代目利元公は、和歌にも造詣が深かった第9代当主の伊達政宗公(大膳大夫)から御礼に「八重霞 霧のまがきにへだつとも 滝野の滝は 音に隠れじ」の書をいただいたといわれています。

平らな岩の上を滑らかに流れる滝は、摺上峡の景勝地のひとつです。

8

茂庭家墓所もにわけぼしよ

大蛇を討って住民の苦難を救った実良公は、建久9年(1198年)に亡くなりました。御遺言により東原寺があったこの地に葬られたといわれています。

摺上川ダム建設により、水没する獅子内地内などに葬られていた茂庭家すべての墓をこの地に移転、追慕しました。

9

熊野神社

くまの
じんじゃ

白鳥神社が村社となるまでは、熊野神社が村の鎮守様でした。
 現在のお堂は宝暦5年(1755年)の造営といわれ、明治4年(1871年)に熊野神社と改称されました。

10

田村御前の墓

たむら
ごぜん
はか

三春城主田村清顕公の正室であり、独眼竜で知られる第17代当主伊達政宗公の正室愛姫の母でもある於北(田村御前)が、最後に茂庭の地に移り住んだと伝えられています。
 もしかしたら、自然あふれる茂庭は遠い昔から、隠棲するには格好の場所だったのかもしれませんが。



11

毘沙門天王
び
しゃ
もん
てん
のう

昔、茂庭地区に原因不明の疫病が流行ったため毘沙門天(別名:多聞天)を祀り、祈願したのが始まりといわれています。毘沙門天には金運や勝運の御利益があったことから、やがて養蚕の神様としても信仰されるようになりました。

現在では、家内安全や無病息災、商売繁盛、合格祈願など、地区を守る神様として幅広く信仰されています。



12

天香森
てん
が
もり

中茂庭地区北側にある円錐形の小高い山で、貞享年間(1684~88年)までは白鳥神社がこの山頂にありました。

地名の由来は、「ヤマトタケルノミコト」(倭建命・日本武尊)が東征の際に御座した所なので、天下る(尊い方が来られた)森とした説や、御座所をどこにするか選んでいたところ、この山が光輝き良い香りがしてとても素晴らしかったため、天香森と名付けたとの説があります。

13

菅沼跡
すげぬまあと

布入地区を越えたところにあり、以前は広大な沼地であったとされますが、今はわずかな湿地が残るのみとなっています。

「茂庭十三代記」では、ここに大蛇が棲み人身御供をとっていたとあり、「陸奥大蛇由来記」では、藤原秀郷の謀略により主君である平将門を失った上に、秀郷の出生地までも騙されたと知った「桔梗の前」が怒り狂って大蛇となり、細い谷をふさいで沼をつくりその主になったとあります。

14

白岩
しろいわ

菅沼の大蛇の吐く息で白くなったといわれ、対岸一帯は人身御供の姫を供える櫓を設けた山なので「大やぐら山」とも呼ばれています。



15

にし
たき
ふ
どう
そん
西滝不動尊

現在の不動尊は、菅沼の道路脇にあります。かつては今のお堂から約100メートル上流にある、西滝の岩壁の窪みに鎮座していたといわれています。

疫病退散や家内安全を祈願して広く信仰されています。



16

にし
たき
西滝

西滝不動尊裏の山林にある迂曲した急な坂道を100メートル程下り、西沢川沿いをしばらく上がると西滝に着きます。

高さ約10メートルの直角の岩肌を一気に落水し、水しぶきを舞い上げる様は圧巻です。

17

白鳥神社

しらとりじんじや



祭神は「ヤマトタケルノミコト」(倭建命・日本武尊)と仲哀天皇ちゆうあいてんのうで、東征ゆかりの地として霊を祀ったといわれています。

実良公は、この祭神の御加護により無事に大蛇を退治することができたといわれています。

貞享年間(1684～88年)に天香森あまかみから現在地(北原寺境内)に遷され、天保元年(1830年)に現在の社殿が造営されました。境内には、文化年間(1804～18年)に建てられたといわれる茂庭碑があります。

18

白鳥神社の大杉

しらとりじんじや

(福島市指定天然記念物)



神社の参道脇にある大杉は推定樹齢が500～550年といわれ、昭和43年(1968年)3月に福島市の天然記念物に指定されました。

茂庭の大蛇伝説では、白鳥大明神しらとりの御加護により二羽の白鳥が2本の矢を実良公のもとに運び、それによって見事退治することができたといわれております。

住民の心のよりどころとして、昔から親しまれ守り育てられてきた大木です。



19

ひろ
せ
かん
ぜ
おん
廣瀬観世音

人身御供となる覚悟でこの地へ来た猿姫は、実良公の家臣である今野図書（いみのずしよ）の妹ですが、大蛇が退治されてからわずか2年後に18歳の若さで亡くなりました。

その夜、姫が秘藏していた観音様から光明が虹のように対岸の広瀬山に飛んで行ったため、この地に棺を埋めお堂を建て観音様を安置したといわれています。

慈眼視衆生広瀬山観世音菩薩と尊称され、「縁日には必ず雨が降る」といわれることから「泣き面観音」とも呼ばれています。



20

どう
なが
じ
ぞう
あたご
じん
じゃ
洞流し地蔵（愛宕神社）

茂庭家2代目資良公が治めていた頃、洪水被害や疫病が続きました。

資良公は、天災の原因が菅沼の大蛇の悪霊にあるのではと危惧し、地蔵様を茂庭の隅々の沢に流してその霊を祓ったといわれています。

かつては、祭礼の日子どもたちが集まり、舅振（あむ）のお堂裏の堀で地蔵様を流す風習がありました。摺上川ダム建設により現在地に遷宮されました。

21

梨平神社

なしだいらじんじゃ



菅沼で実良公によって退治された大蛇の尾を埋め祈ったといわれています。

摺上川ダム建設により水没する梨平地区の人たちがこの地に社殿を建設し、御嶽神社をはじめ、茂庭公の氏神であった稲荷神社や諸々の祭神を合祀し、梨平神社としました。

22

御嶽神社(名号)

みたけじんじゃ
なごう

菅沼で実良公によって退治された大蛇の胴を埋め祈ったといわれています。

摺上川ダム建設により水没するため、現在地に遷宮されました。



23

行人滝
ぎょうにんたき

摺上川の支流である中津川にあり、水煙とともに一気に落下するため滝壺も深く「大蛇がいる」「赤べこが棲む」などの言い伝えがあります。古くから修験者の行場であったといわれています。



24

亀岩
かめいわ

福島市側から国道399号線を進んで摺上川ダムを通過し、大岩を過ぎたあたりに左側へ斜めに入る林道があります。

そこを下ってしばらく進むと、中ノ沢と柳沢(盗人沢とも呼ばれている)の合流付近に大小二つの瓶の形をした巨石があります。

昔は、瓶石、二瓶石とも呼ばれていました。

茂庭旬景

春



摺上峡

夏



摺上川ダム

秋



鳩峰峠付近

冬



茂庭っ湖

摺上川ダム



堤高105m、堤体長718.6m、総貯水容量1億5,300万 m^3 の中央コア型ロックフィルダム、洪水を調整することで下流河川の洪水被害を軽減することや、福島市をはじめとする3市3町への水道用水・かんがい用水の供給、発電などを目的とした多目的ダムです。

ダム湖は、「茂庭っ湖」の愛称で呼ばれています。

摺上川ダムインフォメーションセンター

摺上川ダムの仕組みや役割をビデオやパネルでわかりやすく紹介する情報スペース。茂庭っ湖の雄大な景色をゆっくりとご覧ください。

開館時間
午前9時～
午後4時30分
入場無料

休館日：年末年始（12/29～1/3）

もにわこ
～ 茂庭っ湖 ～



摺上川ダム管理所

〒960-0271
福島市飯坂町茂庭
字蝉狩野山25

問い合わせ:TEL
(024)596-1275



湖面利用

カヌーなどで湖面を利用する際は、摺上川ダム管理所へ届け出てください。
(12/1～3/31は利用できません)



交通のご案内

お車で 東北自動車道福島飯坂I.C.から約16km(約30分)
バスで 福島交通飯坂温泉駅から「中茂庭・もにわの湯」行きバスに乗り、ダムへは「北野原」、もにわの湯・ふるさと館へは終点「もにわの湯」下車





もにわの湯

～美人の湯でゆっくりと ゆったりと～

いにしへの旅人の「笠」をイメージした屋根の下に、自然石を使用した露天風呂もあり茂庭の美しい自然との一体感を味わえます。

泉質は、アルカリ性単純温泉で疲労回復、健康増進に効果があり、すべすべとした肌触りが魅力の「美人の湯」です。

茂庭の美しい自然を満喫し、ゆっくりと「もにわの湯」に浸かって疲れた体を癒してください。



営業時間:午前9時～午後9時
年中無休(点検のため臨時休業あり)

料金:大人250円、子ども120円

問い合わせ:TEL (024)596-1811



茂庭ふるさと館

～豊かな自然の恵みとおいしいそば～



もにわそば処 ^{きり はな てい}霧華亭

地元で育てたそば粉の十割手打ちそばが自慢です。

営業時間:午前11時～午後2時
(定休日 毎週木曜日)

農産物直売所 ^{らい む らい と}来夢来人

茂庭の農家が愛情こめて作った旬の新鮮な野菜、果物、茂庭の山の幸がいっぱいです。

営業時間:午前9時～午後5時
(定休日 毎週木曜日)



茂庭広瀬公園キャンプ場、
バーベキュー広場、
多目的運動場のご利用は、

茂庭生活歴史館

問い合わせ:TEL (024)571-7702

NPO法人

茂庭っ湖の郷

〒960-0271

福島市飯坂町茂庭字清水川原21-2

問い合わせ:TEL (024)571-7701

摺上川ダム周辺地域づくり協議会

(発行／2023年11月)